故郷なる友に

あひ見んと思ふ心のせつなさに
今霄も君をゆめに見しかな

春の歌三首

敏子

曙

つく〳〵と思ひ暮してはれやらぬ
心ににたる春のわけはの

霞

限りなくかすみにけりな懐しき
都のそらやいつこなるらむ

鳥

花になく小鳥の聲も匂ふなり
都の春もかくやのとけき

蝶

東くめ子

春の御神の　みつかひと

世の歌人に
胡蝶の身こそ
夜はすみれの
朝はひばりの
春のこてふの

白き蝶

散りかふ花と
ともにしまへば
花に似たりと

黄なる蝶

枝もたわゝに
山吹のへに
いづれを花と

黒き蝶

げに花よりも

めでらるゝ、
樂しけれ
床にねて
歌をきく
おもしろや

うちみだれ
わかすがた
人はいふ

咲きをゝる
やすらへは
人はとふ

うるはしき